

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100288		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	大分市大字鷺野1183番地1		
自己評価作成日	令和2年6月13日	評価結果市町村受理日	令和2年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4490100288-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和2年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の秋祭などの行事は毎年多くの地域の方に参加して頂き地域との交流にも積極的に努めています。また季節の行事にも力を入れ利用者さんには季節のイベントも楽しんで頂いてます。常時見守りや介助が必要な方が生活している為ご利用さんの普段の様子をよく知り、表情や仕草から体調や訴えを読み取り介護することを心がけています。言語によるコミュニケーションが難しい方も多いため、非言語的コミュニケーションを大切にして笑顔や優しい声掛けやスキンシップを用いる事で利用者さんと職員の安心安全のために利用者さん一人一人に対するケア方法を常日頃から意識し介護技術の向上に各自努めています。

法人の「自分の祖父母と思い、心を込めてお世話する」という理念の下、職員は利用者のペースに合わせ、ゆっくりと日々の生活を楽しみ喜びを共有できるよう努めています。また、ADLの低下が目立つ利用者が多くなり、サービスの見直し等、利用者の思いや意向を把握し暮らしに寄り添う支援を行っています。現在コロナ感染症予防の為、外出・面会等規制がある中でも職員は積極的にアイデアを出し日々の生活の質の向上に切磋琢磨する姿が伺えます。更に事業所では法人全体で地域交流に力を入れており、年1回の「秋祭りや運動会」では利用者・家族以外にも地域の方々を招待したり、多彩なボランティアを受け入れる等地域との「繋がりがりや貢献」を大切にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「職員は利用者さんを自分の祖父母と思い、心を込めてお世話する」という事業所理念は常に職員は常に目につく場所に掲示しており 日々の実践につな げています。	職員がいつでも理念に立ち戻れるよう、事務所内に掲示しています。定例会やモニタリングの時に振り返り、意識の共有を図るとともに個々のケアについて情報を共有し、寄り添ったケアの実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出や散歩をしながら地域の人々との交流に努めている。また、秋祭りやボランティアの受け入れ等で地域の方との関わりを大切にしている。	自治会に加入しており、地域の情報等は運営推進会議で把握しています。利用者においては、散歩時に近隣の方々との挨拶や年度の秋祭りや法人・事業所合同の運動会で地域の方々に参加して頂き、地域との連携に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症の方の検索イベントに初期段階から参加し昨年は地域の皆様と共に無事イベントを終了させました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては毎回地域の方やご家族の意見を伺いいただいた 意見や情報は施設の運営や支援に反映し サービスの質の向上へ向けての取り組みの参考にさせてもらっています。	行政・家族・自治会・老人会・職員等10名程の参加で2ヶ月毎に実施されています。(コロナウイルス防止対策により市の担当者と相談し今回は回避しています。)事業所の近況報告等を行い、参加者の出された意見は運営やサービス向上に反映されています。	円滑な会議運営に向けテーマ(ヒヤリハット報告・身体拘束廃止の説明等)を設け意見交換を行うことで更なる会議の発展を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には事あるごとに連絡をとり、会議への参加や相談、助言などを協力してもらっています。地域包括支援センターのイベントにも積極的に参加しています。	市担当者・地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に参加され情報交換を行っています。相談や質問の折には適切な回答や説明が得られています。また、空室情報も共有され、地域の高齢者を支えるための協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護方法は各職員間で話し合い徹底してます。また、言葉使いや、係わるときの態度にも常に注意を払い精神的な苦痛を与えない介護を実践してます。	身体拘束廃止及び虐待防止に関する研修を年1度実施し、ホーム内でも勉強会を行い意識強化や不適切なケアがないよう常に注意喚起しています。また、ストレスのはけ口が必要と有給休暇の推奨や慰労会等を開催しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員で虐待を見逃さないよう注意を払って虐待防止に努めています。また、虐待につながるストレスや不満が溜まらない職場作りを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さんの必要に応じ、市担当者を恥とする関係者と話し合い、権利擁護や青年後見人制度の活用の有無をけんとうする支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長または管理者により、利用契約、同意書等書面に基つき十分の説明後納得されたうえで署名、捺印をして頂いている。入退去時は管理者が不安、問題点を訪ね十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時に相談意見が言える環境を提供しています。出されは意見はその都度対応するようにし、職員にも開示し毎日の業務に反映できるようにしています。	利用者・家族とのコミュニケーションを大切に考えており、面会時や電話連絡の時に出された意見・要望は記録に残し、全職員で検討・共有し運営に反映させています。また、行事にも家族を招待し、利用者と楽しく過ごせるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議や全体会議を毎月実施し、職員の意見を日頃の業務に反映させています。また、フロアー会議では全職員が順番で司会をすることで積極的に会議に関わる環境を作っています。	管理者は日々ケアに入り、職員とのコミュニケーションを図りながら、意見や課題が話しやすい雰囲気を作っています。朝の申し送りやカンファレンス時に職員の意見・アイデアが積極的に出され、ケア向上や業務改善に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況に負担がないよう、勤務時間や職場環境に配慮しています。また、各自の努力や実績を正しく給与に反映させ、向上心を持って働けるような条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育の教育係は全員が経験するシステムで、教育係の職員も事故の介護をチェックできるように工夫している。また外部の研修も受け入れやすいような勤務体制作りにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	より良い施設を目指すためにも他施設との交流をはかり、交換実習の取り組みも積極的に行い情報交換に努めている。情報は現場での支援につなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接に手本人の思いの観察、把握に努め全職員がその情報を共有できるように努めている、入所後は不安の無いように傾聴を心がけ本人が納得されるまでこれを継続し信頼関係を築きます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接などでご家族の方に丁寧に話を聞き囲碁のコミュニケーションがスムーズにはかれるよう努めサービスへ反映させる。また、いつでも意見や要望を出しやすい環境や関係作りに努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族も含め話し合った結果「その時」必要なサービスであれば、施設以外のサービスでも同意の上対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方を人生の先輩として敬い自分の父母、祖父母と思い一つの大きな「生涯家族」となれるような介護を目指し喜怒哀楽を出せるようお互いが家族の様な関係づくりをしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、連絡時には、現在の状況や様子を報告し、変化や気になることがあればその都度連絡を取るようになっています。定期的に会報発行し年会の行事報告もしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設のイベント等への参加を通じ継続した家族関係を過ごして頂けるよう努めてます。また花見、紅葉狩り、初詣等外出の際可能な限りご家族の方にも参加してもらうよう声かけをしています。	利用者のADLの低下により、馴染みの場所等に出向くことが困難になりつつある中で、施設での行事に家族を招待し、楽しく過ごして頂き関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の相性を把握し、テーブルの配置など、孤立しないようにしている。問題が発生した時のみ職員が間に入って対応するが、それ以外は割り込まずお互いの個性が発揮できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者・家族がいつでも気軽に来所し、相談や近況報告ができるような雰囲気作りに努めている。また、直接の要請があれば相談や支援にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴と観察を怠らずに毎日の生活を通じて利用者さんの思いや希望の把握に努めご家族との相互協力も反映し暮らしの向上に努める。	意思表示が少なくなった利用者には、職員が常に傾聴と観察で思いや願い・不快なこと等を把握し、職員間で情報共有し支援に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしや生活環境の情報収集に努め、なるべく今までの生活したいに合わせた暮らしができるような支援に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中から心身の状況の把握に努め利用者さん一人ひとりの生活リズムを理解し、その人に合った運動やお手伝いを含む作業		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から話を聞き申し送り時やフロア会議で報告の有った状態の変化に準じて介護計画の作成と見直しを行っています。また、ご家族の意向や職員の意見を反映するよう努めています。	利用者・家族の意向、職員の意見やアイデアを基に月1回のモニタリングで話し合い、プラン作成に反映させています。介護度の変更に伴う見直しや、定期的(半年毎)に見直す等現状に即したプランが作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には、体調の変化や印象に残る本人の発言などを記録し、勤務交代時には申し送りともに記録物で利用者さんの個々の状況を把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生じる状況に柔軟な対応でその時にベストと考えられる支援に努めている。受診は家族の付き添いを原則としているが困難な場合は職員が同行するなど柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや秋祭りなどの参加で地域の人と交流しお互い顔見知りとなり地域の一員として溶け込み安心した生活が送れるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の希望を伺いかかりつけ医を決めている。かかりつけ医には必要な情報提供や連携で、受診や緊急時の対応に支障が出ないように努めている。また、希望により往診の支援も行っている。	入居時に、利用者・家族の意向を十分伺いかかりつけ医が選択されています。協力医療機関の訪問診療や訪問歯科により安心して過ごせる医療体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝1度主に看護師によりバイタルチェックを実施。常勤の看護師により個々の心身の状況は把握されており、職員の気付きや報告にも適切な指示、指導もされかかりつけ医との連携も適切にされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院を訪問し、様子を観察しかかりつけ医療機関の関係者とは早期よりの連携に努め情報交換や相談などで入退院の受け入れがスムーズにはこう病環境整備に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明をし、同意の上契約をしているが状況に応じその都度家族への確認を行っている。看取りを希望された時は本人・家族・主治医・看護師と連携を取り納得のいく終末期を過ごせるよう支援している。	重度化や終末期について、入居時に利用者・家族に事業所が出来る事を十分説明し同意を得ています。看取りの経験も重ね、状況の変化に即した説明、意志確認を行い、利用者・家族・医療・事業所が連携して支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網は事務所内に掲示している。急変時のマニュアルは常にめにする場所に掲示されている。看護師による指導も定期的に全員に行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、年2回の防火訓練のうち1回は夜間想定で実施。毎日フロア毎の防火点検簿をチェックしている。風水災害の対象なので近年では水害想定での防災訓練も始めてます。	各事業所による合同避難訓練が年2回実施され、訓練後、会議で反省点や次回の対応について話し合いがもたれています。毎日器具・備品の安全点検が行われ、防災意識の向上に努めています。地域の方々との協力体制にも努めています。	年2回の避難訓練が実施され、避難・対応の向上が図られています。年1回は、消防署の協力を得て避難訓練を行い、計画・実施・反省に写真を付けて記録として残す事で安全対策の強化に繋がる事を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生き方やほこりを尊重し、親しみのある関係性を保ちながらも、常に人生の先輩として敬い接すると共にグループホームならではの暖かく親しみのある会話を心がける。	職員は、一人ひとりの人格を尊重し権利の保障を援助の基本原則に常に意識を持ち支援しています。暖かく親しみのある言葉かけを心掛け全職員が話し合い確認しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さん自らの意思が表現し易い雰囲気作りを心がけている。表現を出すのが難しい利用者さんについても、表情・行動を注意深く観察することにより、思い・希望に添った支援が出来るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのスペースを大切に、思い思いに過ごせるように声掛け、支援し生活リズムやその日に本人がしたいと思っていることを大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添いながら季節にふさわしい過ごしやすい服装をしていただくよう声かけしている。外出時には普段よりおしゃれして出かけるようにもしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べられない物や形態には栄養士や厨房に情報提供し、個別に対応している。また、月に数回入居者と職員が一緒におやつ作りやランチパーティーを開くなどし、買い出しや料理作りを楽しんでいる。	食事は外部に委託しており、事業所内で配膳し提供しています。食事の嗜好・形態も個別の工夫が図られています。利用者と職員が一緒におやつ作りやランチパーティー・行事食と食事が楽しみになる様支援を行っています。おしぼりたみのお手伝いをされる方もいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ形態、量を提供し、医師の指示の有る方には応じた食事や水分の提供を行っている。また、脱水当にも注意を払い、夜間の水分補給にも留意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアの支援を行い口腔内の清潔は保持されている。口腔内に不具合が生じた際は、家族の了承を得た上で司会の往診を依頼している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導だけでなく、表情・言動からも排泄のタイミングを全職員が把握し、できるだけトイレでの排泄ができるように努めている。	職員が全員で習慣や排泄パターンを把握してトイレでの排泄へと繋げています。声かけにも工夫を行い、不安のない自尊心に配慮した支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立の工夫、看護師の運動指導、体調管理。また、職員による適切なトイレ誘導などで、スムーズな排泄ができるよう取り組んでいる。状況に応じ、医師に相談、服薬等の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の体調や希望に合わせ、柔軟に対応している。また、入浴時のこだわりなどを把握し、手順を同じくして気持ち良い入浴を支援している。	週2回の入浴支援が行われています。個々の生活習慣や希望を取り入れその日の状態を見てゆったりと寛げる時間になるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調を考慮しながら、日中はなるべく活動的に過ごし夜間は安眠できるよう支援している。また、寝具は常に清潔を保ち、気持ちよく過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬物、副作用について理解できるよう薬局から出される薬情報はまとめられており、薬剤情報も職員全員周知出来るようにしている。服薬に変化があれば、看護師がすぐに医者に報告するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、顔区からの情報をもとに生活歴から趣味、嗜好までの把握をし日常的に活かしている。得意分野や趣味などで、活躍できる場面を少しでも演出できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調・体力を高所しながら天気の良い日には散歩や買い物同行へ行き、地域との繋がりを確保している。ご家族も参加されたドライブ等も実施している。帰宅支援も家族と話し合い可能な限り実現している。	離床して建物の外に出て景色や自然に触れ、地域の方との挨拶で気分転換へとつなげています。密集地や買い物等出かける事が困難な状況の中、工夫しながら支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて自分でお金を管理したり使用できる方には、希望に応じ買い物支援を実施。できない方には家族と相談の上希望に添えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、プライバシーに配慮しながら対応し声を聞きたい、聞かせたいなどの気持ちに添えるようにしています。手紙に関しても代読や代筆により可能な限り気持ちに添えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間にはクリスマスや正月などの年間行事の際に撮影した思い出の写真を飾るなどし、室内に居ても四季を感じながら、楽しんでいただける空間作りに努めている。	明るい共同空間は、ゆったりと安全に過ごせるようソファやテーブルが設置され壁面には思い出の詰まった記念写真が飾られています。手作りの季節感あふれる作品が飾られ、穏やかに過ごせる工夫がみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのテーブル席は、入居者の相性を考慮し、配置を決めている。窓際のソファは一人になったり、基部合う者同士が会話を楽しんだりゆったりと過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や身の回りの品で過ごせるようにしている。居室内では写真や思い出の品を自由に飾るなど、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	思い出の家族写真、使い慣れた家具、身の回りの日用品等が置かれています。これまでの生活の継続が図れるよう家族と職員が情報を共有して居心地よく過ごせる工夫が見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では一人ひとりの力量に応じて完全に独立した生活が送れるよう手すりの設置や障害物の排除を行っている。職員は常に見守り状態で個々の自立と安全に留意している。		